

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472200443
法人名	有限会社 さくら
事業所名	グループホーム さくら
所在地 (電話番号)	宮城県登米市南方町鴻ノ木147-1 (電 話) 0220-58-3742

評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年9月21日

【情報提供票より】19年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤18人 非常勤1人 常勤換算18.2人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 0 円
	又は1日当たり 1,100円		

(4) 利用者の概要(9月1日 現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やすらぎの里サンクリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商店街に隣接した利便性のある新興地で、散歩しながら買い物ができ、交通量も多くなく安心して入居者は外出できる。隣接のクリニックの協力で、入居者の人工透析も可能で、そのうえ入居者の看取りを行った実績がある。人権擁護の勉強会を持ち、入居者の資産管理をマモリーブに委託している。ADLや下肢筋力の低下を招かぬように、医師の指導による簡単なリハビリ体操を行っている。畑仕事も入居者が進んで行っており、食事には収穫と新鮮で旬な食材を味わう二重の喜びがある。体重チェックを行い健康管理もしている。資格取得の支援も受験日は有給で、受験料を補助し、職員の育成に積極的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>記録のあり方の工夫では、日中と夜間を1ページに並記して一覧できるように改善された。食事の栄養士の指導助言については、登米市の職員の栄養士に、月一回ではあるが指導助言を得ていた。休憩の取り方は、人工透析の入居者がいるので治療時間によって異なるが、臨機応変に対応している。ケアワーカーの意見は、ミーティングや全体会議で取り上げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が試案を作り、職員に回覧して意見を聞き、修正して自己評価表を完成させている。課題があれば職員皆で検討し、実現可能なものから実行に移している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>9月の運営推進会議では、行事報告や今後の行事予定、入居者の状況やサービス提供の状況等が報告されている。グループホームからの報告事項について協議した上、今後のケアや行事に対する要望なども検討されていた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からは苦情ではなく要望が多い。職員の異動は馴れ合いを防ぐため年一回行っている。入居者にダメージを少なくするよう1~2名の最小限に留め、「さくらだより」で家族へ報告している。転倒等が起きた時には速やかに電話等で家族に報せていただきたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>商業施設などの事業者が多い新興地ゆえ、地域の行事が少ないので参加したくとも出来ない状態である。保育園との交流や中学生の職業体験、ボランティアの受け入れなど地域との交流を広めている。運営推進会議などを通して徐々に地域の輪が広がるよう期待する。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の人生観・価値観を尊重し、その人らしさを大切にした、明るく家庭的な雰囲気づくり、地域や家庭との結びつきを重視した介護を目指し、いつも笑顔のある生活を目指すというホーム独自の理念を持っている。	○	理念はその事業所が目指すサービスのあり方を端的に示すものであるから、理念に地域密着型サービスとしての使命を入れるようお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やスタッフルーム等に明示し、ミーティングや全体会議でも理念の実現に向けて日々の介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加盟し地域の一員として活動している。夏祭りには地域の方々を招待したり、保育園との交流会、中学生の職場体験、ボランティアの受け入れなど積極的に行っている。ただ新興地ゆえ地域の行事が少ないので地域の活性化を図ろうと努めている。	○	地域の行事に参加する機会を多く持ちたいと考慮されているが、行事そのものが少ない新興地域としての立地的なこともあるので、地域との交流を徐々に広げて行くよう努めてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を記載する際、管理者が評価の試案を作り、職員全員に回覧し各自の意見を出してもらい、修正して自己評価表を作り上げている。それゆえ、課題等も共有され実現可能なものから実行に移している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は家族2名、区長2名、民生委員2名、登米市職員1名、包括支援1名の12名で、入居者の前で会議が開催されている。今後の行事予定やホームに対する要望などが協議されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設の運営上の問題や困難に遭遇した時など、訪問したり電話等で相談し指導を受けている。前回の外部評価で指摘を受けた食事の件は、月1回メニューを持ち寄り、登米市の保健師に相談指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「報告書」や「さくらだより」を発行して、入居者の暮らし振りや本人の状況について、定期的に報告している。家族アンケートではホームにいつでも訪問でき、イベントも多く協力医が隣りで健康上も安心しており、認知症の進行が止まったなどの意見もあり大変好評である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートには苦情というより要望が多く、毎日どんなものを食べているのか、転倒などしていないかという心配もあった。それゆえ「さくらだより」にメニューを紹介したり、軽い転倒などでも一言、家族にお話するようにお願いしたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は入居者への影響を考え最小限にしている。ただ馴れ合いの防止のため、年に1度A棟とB棟の1～2名の異動を行い引継ぎは十分に行ってダメージを少なくするよう工夫している。人事の交流により両棟の入居者を全職員が把握でき、リスクの管理に役立っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人権擁護の勉強会まで行い、マモリーブに依頼して入居者の資産管理に役立っている。職員の資格取得の支援も積極的で、受験料の補助や受験日は出勤扱いにし、取得後は資格手当を支給され、ケアの中心となっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症高齢者グループホーム連絡協議会の北ブロックで、交換研修や情報交換等を行い、ケアの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に不安のある時は、職員の訪問や本人や家族に来院してもらい、2～3回繰り返すことにより徐々にホームや職員、入居者にも馴染ませて入居させている。人によっては10日くらいかかる場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の職歴や生活歴を参考に、本人の得意な畑仕事や書道、生け花、はり絵、ぬりえなど職員と一緒に過ごしながら、入居者から学んだり、支えあったりして喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりにくい入居者には、家族等から従来の生活歴や思い等を聞き出すと共に、本人の表情やしぐさ等から本人の意向を推測し思いに添えている。尚、聴覚障害者や視覚障害者等に対するコミュニケーションの向上にも努めていただきたい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員がチーフとアセスメントを行い試案を作り、家族や医師、スタッフ等関係者の意見や要望を聞き、修正して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月で計画の見直しを行っている。下肢筋力の低下など変化が伴う場合には、随時家族や本人は勿論、関係者と話し合いながら計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望で通院介助や買い物などの外出、遠出のドライブ、家族の協力によるふるさと訪問等の外泊等にも随時対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や皮膚科の往診、本人や家族の希望によるかかりつけ医や専門医への通院など、タイムリーに行っている。診察の結果は家族に報告している。協力医のおかげで人工透析や看取りが可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期にはかかりつけ医や家族等と今後の方向性を協議し、職員全体で共有している。死は全ての人間に起こるもので、笑顔で逝ける、送れるターミナルステージでありたいと支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドやプライバシーに配慮し、恥かしい思いやプライドが傷つかないように心している。特に言葉遣いには気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、入居者の意向による本人のペースに合わせているが、時には業務中心になりがちの時もある。	○	一人ひとりの生活のリズムやその日に本人がしたいと思っていることを大切にして、職員の仕事の流れの中で入居者のペースを崩さないような配慮や対応は常日頃からお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採取した野菜や季節の食材を活用し、入居者の嗜好を考慮してメニューを作っている。いつも残食調査をして、嫌いな生魚には焼魚や煮魚、肉にはhamやソーセージなどとメニューを工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴は午後8時まで可能である。ADLの関係で、シャワーや足浴で楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農家出身の方が多く野菜の収穫や草取りなどの畑仕事を好む方が多い。食後の片付けや趣味の書道、ぬりえなどで楽しみ、脳トレーニングに挑戦する人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候に合わせ、いつでも戸外に出られるようにしている。買い物やドライブ、ふるさと訪問など入居者の希望に添えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかけず、日中は玄関にも鍵をかけずに自由に入出りできるようにしている。入居者は畑仕事や散歩、買い物等を楽しみ、職員はさりげなく見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対応マニュアルを作成しマニュアル通り、図上訓練や消火訓練、通報訓練、避難訓練を夜間を想定して行っている。消防署の指導で避難のスロープを2ヶ所設置し、避難口が4箇所が増えたので、避難も5分以内に行えるよう努めている。	○	非常災害時には職員だけの誘導には限界があるので、平日頃より運営推進会議で近隣の協力の和を広げて、災害等に近隣の協力が得られるように体制作りをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	人工透析を行っている入居者が3名いるので、医師の指導のもと食事摂取量や水分摂取量などを記録管理している。毎月、登米市の栄養士の指導も受け、栄養のバランスも取れるようになった。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには四季折々の飾り付けや季節の花など、入居者と職員が一緒に作って季節感を醸し出し、居心地のよい共用空間を作る工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇など馴染みのものや家具などを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。趣味の書やぬりえ、はり絵などの作品等を飾り居心地よく過ごせるように工夫している。		